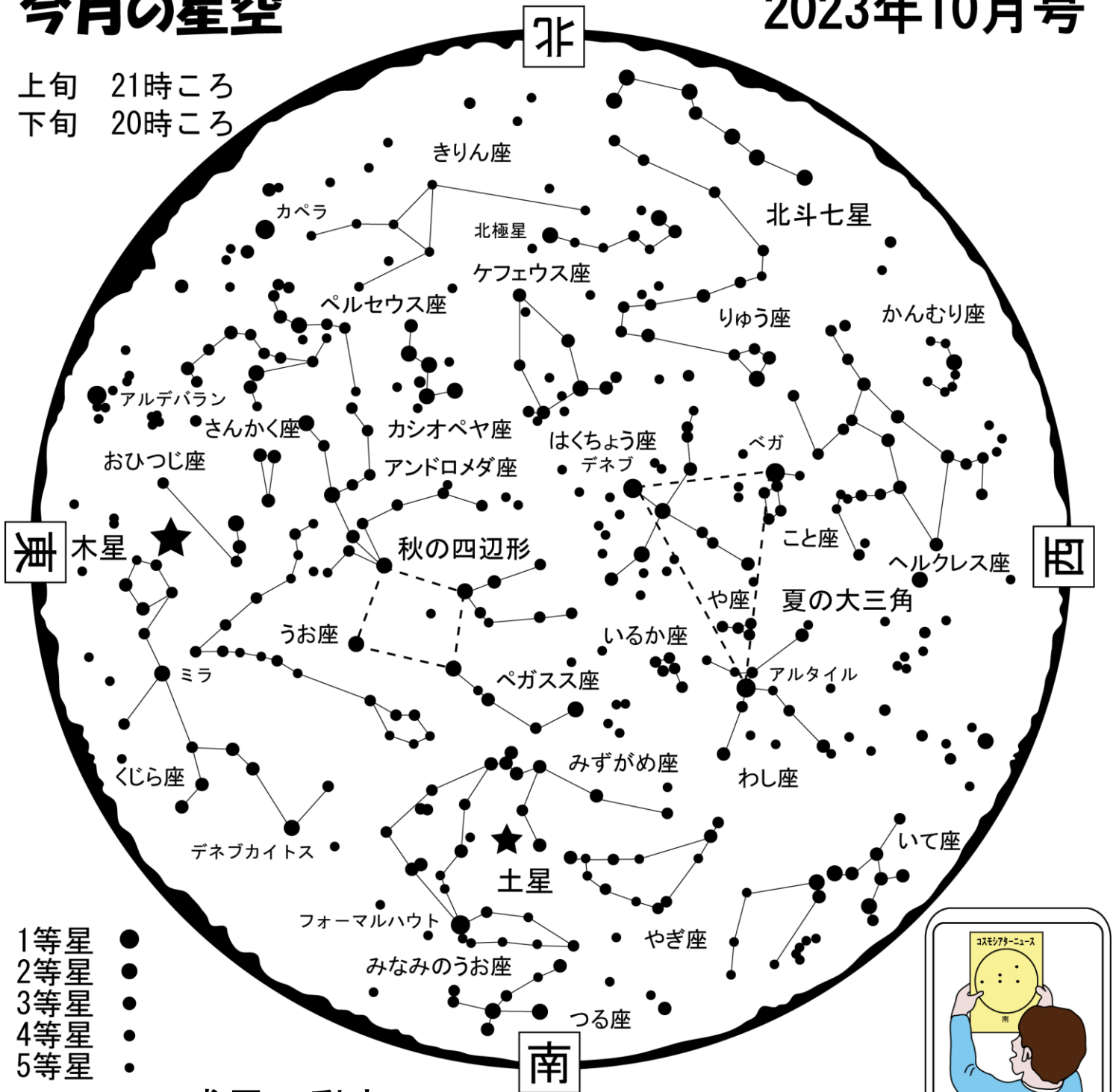


コスモシアターニュース

今月の星空

2023年10月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



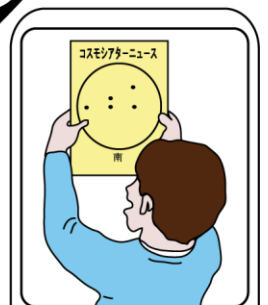
- 1等星 ●
- 2等星 ●●
- 3等星 ●●●
- 4等星 ●●●●
- 5等星 ●●●●●

惑星の動き

水星：初旬の明け方、東のたいへん低い空に見えます。明るさは-1等星です。
金星：明け方、東の空に見えます。明るさは-4.5等星です。
火星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
木星：20時~21時ころ東の空に見え、真夜中すぎに南の空へ移動します。明るさは-2.5等星です。
土星：夜のはじめころ、南の空に見え、真夜中すぎに沈みます。明るさは1等星です。

今月の月の満ち欠け

下弦：6日(金) 新月：15日(日) 上弦：22日(日) 満月：29日(日)



自分の向いている方向を下にして、見てください

2日(月)、東の空で、月と木星が並んで輝く

2日(月)の20時30分ころ、東の空に明るい月が昇ってきます。そして、この月の右を見ると、明るい星が輝いているのが分かるでしょう。この星が木星です。木星は-2.5等星で、普通の1等星の10倍以上明るいので、大変目につくでしょう。なお、時間がたつと高く昇ります。見ごろは、21時以降になります。

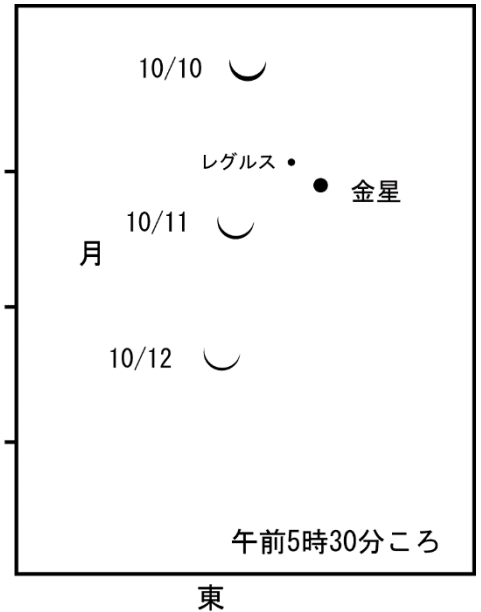
11日(水)、明け方東の空で、月と金星が並んで輝く

明け方の午前5時30分ころ、東の空を見ると、大変明るい星が見えます。この星が金星です。この金星に、11日(水)の明け方、細い月が並んで、大変美しい眺めとなるでしょう。

ところで、10日(火)は、月が金星の左上に輝き、多少離れて見えます。そして、11日は、月が金星の左側に移動し、最も近づいて見えます。その後、12日(木)は、月が金星の左下へ移動し、この接近は終了となります。

天気が良ければ、連続してご覧いただくと、月の位置や欠け具合の変化を見ることができます。ぜひ早起きをしてご覧ください。

なお、金星のそばに、しし座の1等星レグルスが並んで輝いています。ただし、金星が大変明るいので、目立たないかもしれません。



21日(土)～22日(日)、オリオン座流星群が極大

21日(土)～22日(日)の明け方、オリオン座流星群が極大を迎えます。オリオン座流星群は、流れるスピードが速いのが特徴です。ただ明るい流星があまりなく、2等～3等星くらいの流星が多くなる傾向があります。

極大を迎えるのは、22日の午前9時ころです。オリオン座流星群は、オリオン座が昇るまでは流星は見られません。また、オリオン座は21日の22時くらいに東の空から昇ってくるのですが、オリオン座が低い時には、あまり見ることができません。このため、多くなるのは、21日の深夜から、22日の明け方近くになってからでしょう。なお、この流星群は、極大のころが長く、20日～25日くらいまで続きます。よって、必ず21日深夜から22日の明け方に見なくても、他の近くの日でも見ることができるのです。

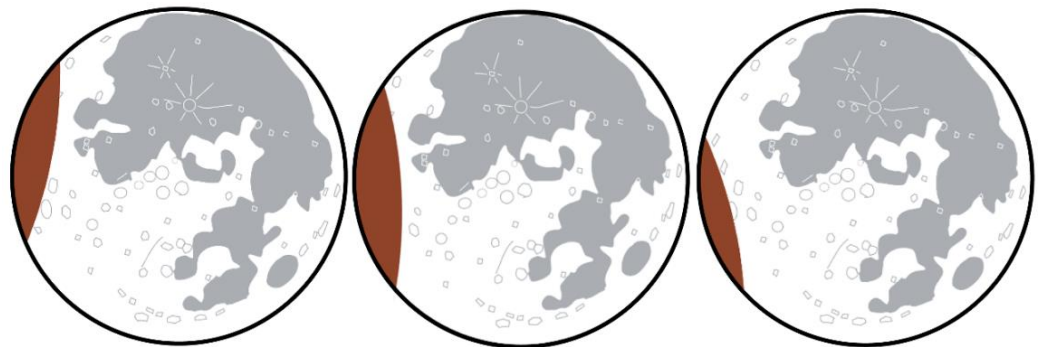
今年は、月が22時半ころに沈み、月明かりがなく絶好の条件です。このため、実際に見える数は、空の条件の良い郊外で1時間あたり10個以上。松山市内では、1時間あたり5個程度は見えるでしょう。冷え込む時期ですので、注意してご覧下さい。

24日(火)、南の空で、月と土星が並んで輝く

24日(火)の20時ころ、半月より少し太い月が、南の空に輝いています。そして、月のすぐ上に、明るめの星が並んで輝きます。この星が土星です。普通の1等星ですので、月が明るくあまり目立たないかもしれません。注意深く探してください。

29日(日)、明け方前、部分月食が見られる

29日(日)の明け方前、部分月食が見られます。月食開始が午前4時34分ころです。このころは、月が西の空に輝いています。なお、月食開始前から、左上が少し暗くなっているのが分かるでしょう。そして、最も欠けて見えるのが、午前5時14分ころです。ただし、12%ほどかけるだけで、月の左上が暗くなっている程度です。その後、月は元の形に戻っていきます。



月食終了は、午前5時54分ころです。日の出が、6時24分ころなので、空は明るくなり、月は西のたいへん低い空に移動し、かなり見づらくなっているでしょう。今回は、月が大きく欠けないので、あまり目立たない現象です。また、明け方の早い時間になりますので、見にくいかもしれません。ただし、日曜日の朝なので、時間があれば、早起きしてご覧ください。西の低い空に見えますので、西方向に障害物がないところ探しておくといいいでしょう。

29日(日)、東の空で、月と木星が並んで輝く

29日(日)の19時ころ、東の空に明るい月と木星が並んで輝きます。2日の接近より、今回の方が、近いので目につく存在となるでしょう。なお、時間がたつと高さが高くなり、見やすくなりますが、月と木星の間隔が離れていきます。月が昇り始めた夜のはじめころが、見ごろとなります。